



光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

光が丘地区では、療育センター陽光園、陽光台保育園など子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えを検討する時期となっています。その中で今後閉校予定の青葉小学校の学校跡施設を「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討することを目的に、昨年度の市民対話ワークショップを踏まえて、全4回の市民検討会を行っています。

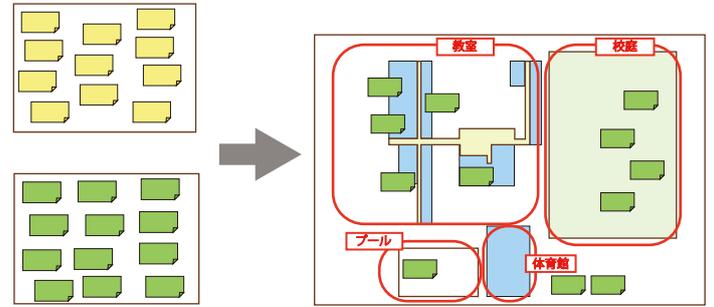
12月11日にこどもワークショップを開催しました！

「自由にミライを考えよう！」をテーマにこどもワークショップを開催しました

こどもワークショップの内容

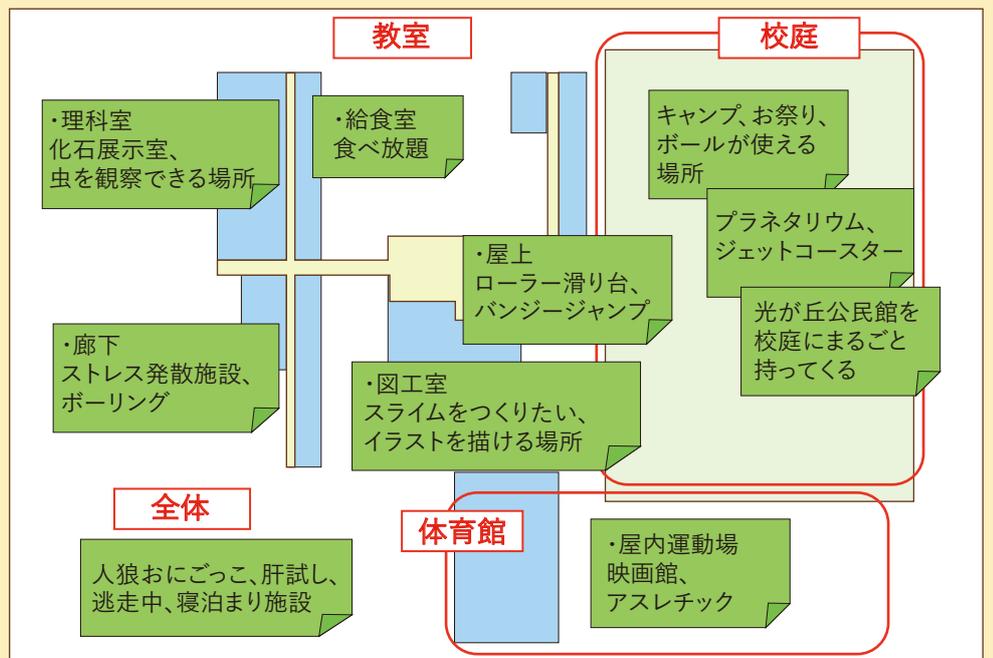
ワーク：「子どもの施設」、「新しい施設でこんなことしたいな」というアイデアを考える

- ①「今頑張っていること、学校以外で行くところを話す」
普段やっていることを自由に話しました。その後、放課後や休日に遊びに行くところを付せんに書いて模造紙に貼りました。
- ②「こんなことができると良いな、こんな場所があったらいいなというアイデアを出す」
「こういう活動や遊びをしたい」、「こんな場所が欲しい」というアイデアを緑の付せんに書きました。その後、書いたアイデアを青葉小学校のどこでできるかを考えて地図に貼りました。



ワークの結果

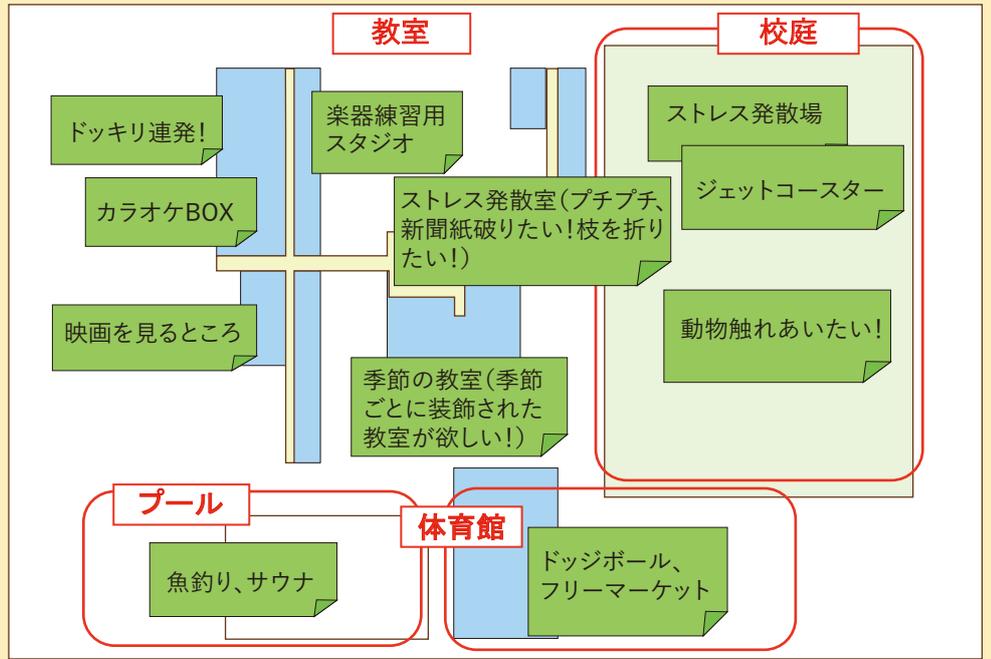
1班



1班の特徴は、「場所の特性」と「活動」が結びついている点にあると思います。例えば、給食室では『食べ放題』、廊下では『ボーリング』、屋上では『バンジージャンプ』といった具合に。イベント開催等を通じて実現してあげたいですね。また、光が丘公民館をまるごと校庭にもつてくる、というアイデアも、市民検討会での意見とも通じる貴重な意見です。



2班



大人がなかなか気付けない子どもたちのニーズが発見されたと感じました。特に、「癒やされる場所」や「ゆったりできる場所」という言葉が印象に残っています。活発に遊ぶということだけでなく、静かに行む、といったシーンを想定することもまた、これからの施設活用を考える際に大事なポイントになりそうですよね。



フォトギャラリー



讃岐先生



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担っている

大人が気付かない、子どもたちの生の声、アイデアが浮かび上がってきたと感じました。少人数ながらもこれだけ多くのアイデアが出てきたことを考えると、一度だけのワークショップ開催ではもったいないですね。このように子どもたちの声を聞くことを継続していくべきです。今日いただいたアイデアは、「イベントで実現できること」と「毎日そうあってほしいと思うこと」とに整理できそうです。その上で市民検討会にフィードバックすると、一つ一つのアイデアがより現実味を帯びて伝わると思います。今日参加してくれた皆さんにも未来の青葉小学校を楽しんでもらえるよう、議論を深めていきましょう!

次回予告

1月14日(土) 14:00～

会場：光が丘公民館

「テーマごとに考えて成果をまとめよう」

～これまでの取組について～

相模原市ホームページ>トップページ>中央区>光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

